

巻 頭 言

センター長 岡部 洋一

2001年にセンター長になってもうじき5年になります。その間、センター内を色々いじってきましたが、一番遅れたのがスパコン部門でした。かって、1万人に迫ろうかというユーザ総数が、1千人ぐらい、アクティブユーザ数はさらにその1/10ぐらいかも知れません。

パソコンの普及により、皆が手元に計算機を持つようになり、時代の流れとして当然と思っておりましたが、先日、米国のある大学のCOI(情報理事)と話を持つチャンスがあり、ちょっとびっくりしました。アクティブユーザ数が優に1千人を超えるのだそうです。おまけに、そのうちのかなりが生命系だとのこと。

その仕掛けを伺うと、プログラムヘルプデスクに相当する人員が100名余、しかも事実上、プログラムを書いてあげることもあるとのことでした。もちろん、かなりの人員は非常勤のようですが、それにしても凄い一言でした。翻って、我がセンターを見ると、指導員が数名、しかも、スパコンの指導者は若干名です。これがその差かと実感できました。

正直言って、当センターに限らず、日本の多くの同様な施設は、この辺をさぼってきたのではないかと思います。言い訳になるけれど、ヘビーユーザを大事にしていれば、そこそこの安定収入が得られます。そこに安住し、新規ユーザの開拓をしてこなかったのです。

加えて、今迄は、ハードウェアにはお金がつくが、サービスにはお金がつかなかったという国の会計の制約もありました。しかし、今や、法人化に伴なって、費目の転用は可能です。非常勤であれば、人を採用するお金もあるのです。もちろん、いきなり100名余もの人材確保は無理でしょうが、可能性はあるのです。

ということで、次期機種から、少しでも、新規ユーザが使い易い環境を整えていこうということになりました。

残念ながら、私は、この原稿を書いている時点であと二ヶ月ちょっとで定年退職です。こうした問題点に気付いて行動に移しだしてからまだ半年も経っていません。いわば、志半ばにして退職で、誠に残念ですが、今後、担当の教職員が頑張ってくれるものと期待しております。皆様にもどうか暖かい心をもって見守っていただけるよう、切に望みます。